

花崗岩でできた古代寺院の名残
惣爪塔跡



指定区分	国指定史跡
読みかた	そうづめとうあと
所在地	岡山市北区惣爪
指定年月日	昭和3年2月7日
解説	古代の寺跡を示す花崗岩の塔跡の心礎。長径約2m、短径約1.5m。楕円形の花崗岩の中央部に円柱孔(直径約70cm、深さ約17cm)があり、その底にさらに小孔(直径約16cm)がある。周辺から奈良時代の瓦の破片などが発見されており、一定規模の寺域を想定することができる。
アクセス方法	JR吉備津駅から徒歩約30分
公開状況	自由
設備	
備考	足守川対岸の丘陵には、弥生時代の墓としては最大規模を誇る楯築遺跡や、石棺のある王墓山古墳があります。

きつずページ



していくぶん (指定区分)	国指定史跡
ぶんかざいめい (文化財名)	惣爪塔跡
よみかた	そうづめとうあと
しょざいち (所在地)	岡山市北区惣爪
していつひ (指定した日)	昭和3年2月7日
せつめい	塔(とう)の柱(はしら)をうける土台(どだい)の跡(あと)がのこっています。この土台の跡は花崗岩(かこうがん)という石でできています。古代にここに寺(てら)があったことが分かります。まわりから奈良時代(ならじだい)の瓦(かわら)の破片(はへん)などが見つかったので、それなりに広い寺だったことが想像(そうぞう)できます。